

年頭のごあいさつ

佐川町長
堀見 和道



新年明けましておめでとございます。町民の皆様におかれましては、晴れやかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、昨年中は町政運営に對しまして、様々な形でご参加、ご協力いただきましたことを改めて厚く御礼申し上げます。

孔子先生の「論語」のなかに、「故きを温ねて新しきを知れば、以て師と為るべし。」という章があります。この言葉は「温故知新」という四字熟語でもよく知られており、「昔の人の教えや過去のことを学習し、そこから新しい考え方や取り組み方を見つければ、人を教える先生とすることができる。」という意味になります。これはまさしく、現在取り組んでいる佐川町の幸せなまちづくりにつながる考え方であり、佐川町には、植物や地質など、長い年月を重ねた地球の営みの中で生まれた自然の宝物や、佐川町の先人達が築き上げてくれた宝物がたくさんあります。これらの宝物を見つめなおし、学び、そこから未来を創造していく中で、イキイキと輝くまちを創ることができると考え、取り組んでいます。「まちまるごと植物園」の取組みや、「歴まちさかわ」として上町地区の歴史的風致を守り、向上させていく取組みは、町内外からの評価も高く、町の誇るべき宝として輝きを放っています。また、全国でも先駆的な取組として林野庁からも評価をいただいている自伐型林業の取組みも、先人の思いがこもった森林を、公益性の観点から行政が主体的に持続可能な森林管理に関わり、エネルギー利

用やモノづくりの視点で新しい活用方法を考える、というまさしく温故知新の流れになっています。

「以て師と為るべし。」という言葉は、植物好きの人、佐川町の歴史に造詣が深い人、地質学に詳しい人など、町民一人一人が先生になることが大切だ、と捉えることもできます。故きを温ねて新しきを知り、自ら主体的に楽しみながら行動する、このことが元氣なまちを創るためには一番大切なのではないでしょうか。

高知県の新たな管理型最終処分場の選定について少し触れさせていただきます。まだ最終的に決定をしていない段階で、はっきりとお伝え出来ないことがあります。昨年12月の県議会において尾崎知事が「佐川町加茂において進入道路を新設する案が最も有力ではないかと考えている。」と提案説明されました。これは、客観性を大切に、科学的かつ合理的な視点から出された判断であり、佐川町としてはこの判断を尊重し、真摯に受け止めたいと考えています。その上で一番大切なのは、不安に思われている住民の方々の声をしっかりと受け止め、不安を取り除けるよう丁寧に対応をさせていただくことだと思っております。今後につきましても、具体的な内容が分かり次第、広報等でお伝えさせていただきますので、ご理解いただければと思います。

今年も、「チームさかわ まじめに、おもしろく。」笑顔で楽しみながらみんなで素敵な一年にして参りましょう！